

6 4案のメリットとデメリット

第2段階で比較検討した結果、4案のメリットとデメリットは次のとおりです。

	再配置校	メリット	デメリット
A案	寒川小学校 一之宮小学校 旭小学校 小谷小学校 寒川中学校 旭が丘中学校	・寒川東中学校、南小学校開校前の状況に戻るため、当時を知る世代にとってはなじみのある配置となる。 ・南西部に配置される2校の校地面積が相対的に広い。	・小学校低学年の通学距離を鑑みると、相対的に評価が落ちる。 ・南東部の自治会からのアクセスが遠くなる。 ・未配置校2校の場所が市街化調整区域内であるため、売却や利活用の幅が狭い。
B案	寒川小学校 旭小学校 小谷小学校 南小学校 寒川中学校 旭が丘中学校	・小学校低学年の通学距離に配慮した立地である。 ・寒川高校との連携が見込める。 ・未配置校の敷地の売却による児童・生徒数の増加に対応できる余地がある。	・未配置校2校のうち1校が市街化調整区域内であるため、財源の効果が中程度となる。
C案	寒川小学校 一之宮小学校 旭小学校 小谷小学校 旭が丘中学校 寒川東中学校	・南東部及び南西部に学校が配置されるためバランスがよい。 ・未配置校の敷地の売却による児童・生徒数の増加に対応できる余地がある。	・小学校低学年の通学距離を鑑みると、相対的に評価が落ちる。 ・未配置校2校のうち1校が市街化調整区域内であるため、財源の効果が中程度となる。
D案	寒川小学校 旭小学校 小谷小学校 南小学校 旭が丘中学校 寒川東中学校	・未配置校2校の場所が市街化区域内であるため、売却や利活用の幅が広く財源確保効果が相対的に大きい。そのため、新たな教育ニーズや魅力ある学校施設等の維持管理、他の行政サービス水準維持への貢献度が大きい。 ・小学校低学年の通学距離に配慮した立地である。	・南西部の自治会からのアクセスが遠くなる。 ・南西部から広域避難場所がなくなるため、当該施設等の検討が必要となる。 ・未配置校の敷地の売却により、児童・生徒数が想定以上に増加する可能性がある。